

# 初 年 次 教 育 学 会

## ニューズレター 第 10 号

Japanese Association of First Year Experience  
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822

E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局

法政大学 藤田哲也研究室内

### 今号の内容

1. ご挨拶
2. 事務局からのお知らせ
3. 学会誌編集委員会からのお知らせ
4. 第 11 回大会について
5. 2017 年度「初年次教育実践交流会」報告
6. 将来構想実行委員会からのお知らせ
7. 編集担当より

### 1. ご挨拶

会長 藤本 元啓 (崇城大学)

昨年 6 月から、初代会長の山田礼子先生、二代目の安永悟先生のあとを引き継ぎ、会長を務めさせて頂いております。何卒よろしくお願ひいたします。

本学会は、初年次教育に関する実践事例や理論研究などについての報告・情報交換を行っており、個人会員は約 600 名になりました。また 98 に及ぶ大学が機関会員に名をつらね、毎年 SD を兼ねて多くの職員各位を派遣されていることは、本学会の大きな特徴の一つといえましょう。

さて、2007 年 12 月に初年次教育学会が設立趣旨を発表し、翌年 3 月に同志社大学で設立大会を開催してから 10 年が経過しました。文部科学省によると、2015 年度の初年次教育の実施率は 96.6% (721 大学) にまで達し、教育内容は多岐にわたっています。この間、2008 年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」以来、高等教育を取り巻く環境は大きく変わって参りました。

当然、そのスタートを担う初年次教育も影響を受けております。大会での報告をみますと、評価方法や成果そのものの、「3つのポリシー」や学士課程教育におけるカリキュラムとしての位置づけ、高大接続と連携のあり方などの報告が増えつつあります。一連の答申にもとづく初年次教育の「内容と質と成果」の検証が始まり、新たな段階に進んだ感があります。本年 9 月に酪農学園大学 (北海道) で開催する 10 周年記念大会では、学会設立趣意書に「入学した学生を大学教育に適応させ、中退などの挫折を防ぎ、成功に水路づける」とある文言をいま一度かみしめつつ、実践事例報告に加えて、このような新たな分野の報告にあふれることを期待しています。

また 10 周年を記念して、『進化する初年次教育』(世界思想社) の刊行を企画しました。内容は、初年次教育をとりまく課題、カリキュラムとしての初年次教育、初年次教育の実践的方法の 3 部構成で、大会時にお渡しできるようにしております。

さらに「教育実践賞」を新設し、会員の実践事例をひろくご紹介することにいたしました。詳細は学会 HP をご覧のうえ、奮ってご応募いただきたく存じます。

会員各位には年度初めでご多忙のおりと存じますが、この「ニューズレター」第 10 号にて本学会の動向や新年度の予定等をご確認ください。そして 9 月の大会において、多くの会員各位と集えることを楽しみにしております。

### 2. 事務局からのお知らせ

事務局長 藤田 哲也 (法政大学)

いつもお世話になっております。事務局長の藤田哲也 (法政大学) です。事務局から 3 月 29 日に皆様に向けて配信したメール内容と重複するものも含まれますが、以下についてお願い申し上げます。

#### (1) 2018 年度年会費納入のお願い

既にお手元に 2018 年度年会費納入のための振替用紙が届いているかと思ひます。5 月 31 日までに納めていただければ幸いです。

#### (2) マイページ活用をお願い

2016 年度からマイページの運用が始まっています。マイページからは、会員情報 (所属等) の変更が行えます。4 月以降、異動される方、メールアドレスを変更される方などは、

ご自身で登録情報を変更することができます。年会費の納入状況もご確認いただけます。ぜひご利用ください。

#### 初年次教育学会マイページへのアクセス方法

- a. 下記 URL からマイページへアクセスする。
- b. 「会員番号」「パスワード」を入力し「ログイン」をクリックする。

マイページ URL :

<https://iap-jp.org/jafye/mypage/login/login>

※学会ホームページからもマイページにアクセスできます。

ログインに必要な「会員番号」「パスワード」は、2015年度に既に会員だった方には2016年3月16日頃に、2016年度以降に入会された方には入会時にお送りしたメールに記載されています。今後も必要となりますので、お手元にお控えください。

その他、何かご不明な点などございましたら、お気軽に事務局にお尋ねください。引き続きよろしくご願ひ申し上げます。

### 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 沖 清豪（早稲田大学）

2018年3月発行予定の『初年次教育学会誌』第10巻第1号の発行が遅れており、ご心配をおかけしております。現在編集作業を進めておりますので、今しばらくお待ちください。2年続けて発行が遅れましたこと、編集委員長として深くお詫びいたします。なお、次号より編集委員会の体制が変更になります。

幸いなことに、第10巻では2年ぶりに研究論文、事例研究論文が掲載されます。中部大学で開催されました大会のシンポジウムや課題研究シンポジウムの報告など、充実した内容となります。

次号は第11巻第1号となります。会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。ここでは原稿募集の概略をお知らせします。

#### (1) 次号の発行時期について

2019年3月の発行を予定しております。

#### (2) 投稿論文の締切について

第11巻の投稿締め切りは2018年5月末日となります。ただし、学会誌の編集規程および論文の執筆要領に従っていない場合には、投稿論文を受領することはできません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場

合の期限も5月末日となります。提出期限間に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることもあり得ます。特に執筆テンプレートの利用、および図表については本文中には該当箇所を示すだけとして、図・表いずれもテンプレート末尾のページに掲載することについて、該当されるかたは改めてご注意いただければ幸いです。

#### (3) 原稿の執筆、投稿、その他詳細について

初年次教育学会のホームページに記載している「初年次教育学会誌執筆要領」「執筆テンプレート」をご参照ください。指定した書式通りでない原稿は受け付けることができませんのでご注意ください。

<http://www.jafye.org/society/regulations/shippitsuyoryo/>

#### (4) 投稿論文の提出先について

初年次教育学会 HP の電子投稿システムからお手続きください。皆様からの投稿をお待ち申し上げます。

<https://iap-jp.org/jafye/post/Login>

#### (5) 投稿資格および1巻あたりの投稿数について

本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し3月末までに会費を納入している個人会員および機関会員に限られます。また、1巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第9条をご確認ください。

より多くの会員の皆様から、充実した研究論文および事例研究論文の投稿をお待ちしております。

<http://www.jafye.org/society/regulations/henshukitei/>

### 4. 第11回大会について

第11回大会実行委員長 大和田 秀一（酪農学園大学）

第11回大会が、9月5日（水）～6日（木）に札幌市近郊（江別市）にあります酪農学園大学で開催されます。

発表申込みは4月10日（火）～5月14日（月）、参加申込みは6月12日（火）～8月9日（木）を予定しております。学会 HP 上で公開される第11回大会の HP よりお申し込みください（4月10日公開予定）。なお、発表申込みの際には、同時に発表要旨原稿を提出していただくことになっております。また、今大会より発表内容の要件（未発表のものに限る）、および発表者（登壇者）の要件を、理事会での検討に基づき、これまで以上に明確化しています。詳細について大会 HP でご確認の上、ご準備をお進めください。

本大会のテーマは『初年次教育とチームづくり ―動機づけとリーダーシップの側面から―』です。先の第10回大会では、「学びのコミュニティ」構築を支援するための学生理解、授業内外における初年次教育の取り組み事例が取り上げられました。今大会では、共通の目標を達成すべく機能するグループをチームと定義し、初年次教育プログラム（しばしばグループで取り組まれる）の目標を達成するためのチームづくりを取り上げます。1日目の大会校企画シンポジウムでは、動機づけとリーダーシップの側面に光を当てます。

また、2日目には担当理事の企画による課題研究シンポジウムがあり、2日間を通じて行われる教育実践賞のポスター発表もあります。こちらについては、本ニュースレターに掲載されている担当理事からのメッセージをご覧ください。

前回は節目の第10回大会でしたが、第11回大会は学会創立10周年にあたります。この記念すべき大会を酪農学園大学で開催できることは、大変な名誉であると受け止めています。皆様にご満足いただけるような大会にすべく、関係者一同で準備を進めて参りますので、是非とも足をお運びください。爽やかな北の大地でお待ちしております。

## 5. 2017年度「初年次教育実践交流会」報告

地域活動活性化委員会委員長 安永 悟（久留米大学）

2017年度は、計3回の実践交流会を開催しました。次年度は5月に北陸（金沢）、8月に創価大学で開催、また久留米大学では「授業づくり研究会」および「協同教育フェスタ」との共催を予定しています。詳細は順次ご案内いたします。

実践交流会は地域の実情や、集う仲間の要望に応じて自由に企画・運営していただければと思います。取りあげる内容につきましては、初年次教育に関係していれば幅広く柔軟に考えていただいて構いません。参加者も本学会会員に限定せず、初年次教育に関心のある方であればどなたでも参加できるようにしてください。

ただ、講演会等にご遠慮ください。あくまでも実践している正課や課外の授業・プログラム・取組等の成果や失敗例など、現場担当の教職員各位の報告や話題提供、そして意見交換を趣旨といたします。

実践交流会を開催したいと考えている会員各位は、学会事務局までご一報ください。可能な限り「地域活動活性化委員会」がお手伝いいたします。

以下に、今年度開催しました概要等を報告いたします。

## 第1回 初年次教育実践交流会 in 北陸

日時：平成29年5月20日（土）、13～17時

会場：石川県政記念しいのき迎賓館 2F ガーデンルーム

テーマ：医歯薬看護系におけるアクティブラーニングの実践と展開

### 1. 報告

①本田 康二郎（金沢医科大学）「医学部初年次教育の標準型をめざす模索 ―PBL, AW, CT の三位一体教育システムとその展開―」

②一ノ山 隆司（金城大学）「看護基礎教育における初年次教育2年間の試み（「覚える」学習から「考える」学習へ） ―アクティブラーニングの定着化と PBL・IBL への準備―」

③中越 元子（北陸大学）「生徒から自ら学ぶ薬学生への変容を支援する「イグナイト教育」の展開 ―いわき明星大学での実践を事例に―」

④垣花 渉（石川県立看護大学）「看護学生の主体的に学ぶ力を地域で育てる ―スタディ・スキルの育成と経験のふり返りに着目して―」

### 2. 意見・感想落書きタイム

### 3. パネルディスカッションとフロアとの意見交換：「初年次教育とアクティブラーニングに関する課題」

コーディネーター：藤本 元啓（崇城大学）

パネリスト：本田 康二郎、一ノ山 隆司、中越 元子、垣花 渉

### 4. 総括：西村 秀雄（金沢工業大学）

### 5. 名刺交換会

### 6. 概要

石川県のみならず、京都、岡山、新潟、東京から70名の参加者があり、活発な意見交換がなされた。医・薬・看護系における初年次教育の実践報告だけあって、少人数クラス、1クラス複数教員の配置、初年次科目の科目間連携、キャリアを意識した内容など専門性に接続した運営がなされていた。

パネルディスカッションでは、今回の報告大学が国試を重視する職業系学科であるため、国家資格受験対策という命題と初年次教育との関わりについての議論が起こった。結果的には、医者、薬剤師、看護師のいずれにも汎用的基礎的能力の修得は必要であり、初年次学生時に、それに必要な内容を倫理的行動とともに身につけることが重要であるとの認識で一致した。いずれも人の生命や健康に携わる職業人の要請に目的を持つということに尽きると考える。（文責：藤本 元啓・崇城大学）

## 第2回

日 時：平成29年7月22日（土）、10時～17時

会 場：久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティング  
＝ルーム3

### 1. 挨拶・導入

①内容：「協同教育フェスタ」の目的と内容の説明。

### 2. 基礎理論と技法

①講師：安永 悟（久留米大学）

②内容：学び合える支持的・協同的な場づくりを通して、協同学習の基本的な考え方と技法について体験的に学ぶことができた。特に LTD の基本を解説し、図表の読み方の指導法としての看図アプローチにも言及があった。

### 3. 実践・研究報告1

①題目：「LTD based PBL ―実践のポイントと効果―」

②講師：長田 敬五（日本歯科大学新潟生命歯学部）

③内容：これまで実施してきた PBL（問題基盤型学習）に替わる学習方略として考案された LTD based PBL（LTD に基づく問題基盤型学習）に関して、実践上の留意点と、その成果が報告された。

### 4. 実践・研究報告2

①題目：「協同学習を基盤とした避難所運営ゲーム（HUG）でめざす大学生の地域防災・減災意識の育成」

②講師：牧野 典子（中部大学生命健康科学部）

③内容：学部2年生を対象とする科目「地域の防災と安全」へ HUG を導入した事例が紹介された後、参加者も実際に HUG を体験した。そのうえで、避難所生活やその運営に欠かすことができない「協同の精神」を育成するために、より良い授業づくりについて話し合いがもたれた。

④協力者（HUG カードの読み手兼ファシリテーター）

⑤鈴木 保利，安井 史子，田中 正純（春日井市安全安心まちづくりポニター）

神村 和也，田中 千尋，藤井 琴実（中部大学生，NPO センター災害対策プロジェクト）

### 5. 全体交流

①ファシリテーター：須藤 文（久留米大学）

②内容：協同学習に関して疑問に思っていることや質問したいこと、さらには自分の実践について、参加者同士が自由に交流しながら理解を深めることができた。その際、協同学習の考え方と技法を用いて活動が構成されており、協同学習の経験知を高める場としても活用できた。

## 6. 懇親会

### 7. 概要

協同教育研究所「結風」主催の「協同教育フェスタ」を「初年次教育実践交流会」としてお認めいただき、初年次教育学会との共催という形で開催した。参加者は83名であった。

地元福岡からの参加者が中心であったが、関東、中部、関西や沖縄など、遠方からの参加者も多かった。今回は、協同学習による教育改善に取り組んでいる久留米大学医学部からの参加者が数多く含まれていた。多くの参加者と積極的に交流ができ、深い学びをえることができた。（文責：安永 悟・久留米大学）

## 第3回

日 時：平成29年12月9日（土）、13～17時

会 場：久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティング  
＝ルーム3

### 1. 挨拶・導入

①担当：安永 悟（久留米大学）

②内容：協同の技法をもちいた自己紹介を通して、協同学習の基本技法である傾聴と復唱（ミラーリング）、ラウンドロビンやシンク＝ペア＝シェアなどを体験することができた。加えて、協同学習に関する最近の動向が紹介された。

### 2. 実践・研究報告1

①題目：「LTD 基盤型反転授業の試み」

②講師：安永 悟（久留米大学）

③内容：講師が提唱している LTD 基盤型授業モデルに依拠した反転授業についての実践報告がなされた。具体的には、反転授業について簡単な解説の後、LTD を基盤とした反転授業を取り入れている専門科目「教育心理学Ⅱ」の実践例が紹介された。

### 3. 実践・研究報告2

①題目：「学生の主体的・協調的な学びをもたらす反転授業～山梨大学の事例～」

②講師：埴 雅典（山梨大学）

③内容：山梨大学では2012年度より、学生の主体的・協調的な学びを促す授業方法の研究に着手し、議論を重ねた結果たどり着いたのが、今日「反転授業」と呼ばれる方法であったことが紹介された。そのうえで、アクティブラーニングと反転授業の関係、反転授業の実施方法、山梨大学の反転授業の実践例とその成果、5年の実践から見えてきたこと、などについての報告がなされた。

#### 4. 懇親会

#### 5. 概要

協同教育研究所「結風」主催の「授業づくり研究会」を「初年次教育実践交流会」としてお認めいただき、初年次教育学会との共催という形で開催した。参加者は46名であった。

今回の研究会では、上記のように「反転授業」を中心テーマとして取り上げ、反転授業を支える協同学習（LTD話し合い学習法）について、および、山梨大学での実践例を中心に意見交換をおこなった。（文責：安永 悟・久留米大学）

#### 6. 将来構想実行委員会からのお知らせ

将来構想実行委員会 山田 礼子（同志社大学）

##### (1) 出版企画について

学会の設立10周年を記念して、『初年次教育の現状と未来』の後継となる書籍を世界思想社より刊行します。「初年次教育のこれまでと現状」「高大接続といった現代的な課題と初年次教育」「初年次教育をめぐる実践的な方法・方略とこれから」といったテーマを柱に「学会の歩み」を加え検討を進めてきました。『進化する初年次教育』という題名で8月に刊行する予定です。本学会員はもちろん、大学教職員、高等学校教員はじめ中等・初等教育の関係者などを対象に、理論と実践の両側面から初年次教育について明らかにすることを通じて、将来に向けた視点が盛り込まれています。執筆者一同、皆様の初年次教育プログラムの構築や実践の参考になるものと期待しております。

##### (2) 教育実践賞について（現在、応募期間中です）

初年次教育学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、効果的な初年次教育の実践例を表彰し、学会内外に広く紹介することとしました。

審査の結果、選ばれた取組については学会大会で表彰するとともに、学会ニュースレターによる通知と学会ウェブサイトおよび学会誌での公表を行います。

会員諸氏のこれまでの初年次教育実践への努力と工夫を広め、大学教育の発展に貢献する貴重な機会となりえます。

申請期間は、2018年3月19日（月）～2018年4月30日（月）です。皆様、奮ってご応募ください。詳細は下記URLからご確認ください。

<http://www.jafye.org/award/>

#### 7. 編集担当より

##### (1) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、学会ウェブに本文（このファイル）および広告データを次号刊行まで掲載します。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与していません。

<http://www.jafye.org/newsletter/nl10/>

##### (2) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

##### (3) 事務局分室について

本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

##### 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822

E-mail: [jafye-office@bunken.co.jp](mailto:jafye-office@bunken.co.jp)

事務局 法政大学 藤田 哲也研究室内

編集：西村 秀雄（総務・広報委員会）

（2018年3月31日第1版公表）